

町
の
筆

熊

野

誌

発刊を祝して

新しい火が燃え宇宙の扉の一隅が人類の手によつておし開かれた今日、ともすると、それらはなばなしの成果にのみ眼を奪はれ、自らのよつて立つ足もとを見つめることがおろそかになり勝ちであります。

この度熊野商工会が、いく多の困難をおかして熊野誌を刊行されましたことは、まことに時宜を得たものと云うべく深く敬意を表すると共に町民として心からなる御祝いを申しあげます。

温故知新と申しますが、温故とは古き神々の復活を願うものであつたり、或は古きものへの単なるあこがれや、郷愁であつてはなりません。豊かな心のふるさととなるものであり、躍進する明日への道を的確に設計する為の基礎をつくることであります。

郷土に対するこの愛情と科学性だけが「筆の町熊野」の明日を明かるく約束するものだと思います。この町誌がこうした条件の確立を促すと同時に、更に「筆の熊野」に対する認識をより広くひろめて行くよすがとなるであろうことを私は信じて疑いません。

昭和三十四年二月一日

熊野町長 城 本 勝 司